

(3) 2年生対象「暑さ対策」地域へ発信！中学生サポーター事業に係る

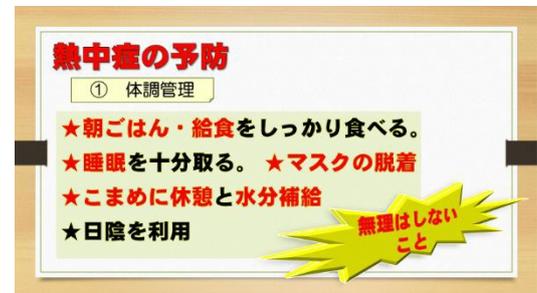
心肺蘇生法実習の運営

心肺蘇生法の実習の運営を、保健委員会2年生が行った。中心になって運営を行うことで、熱中症やその対応に対してより興味関心を持って取り組むことができた。



(4) 生徒朝会にて熱中症予防や対応方法について発表

各教室の大型モニターを用いて、熱中症予防と処置について保健委員が発表を行った。3年生は、全体を対象にした熱中症予防の授業がなかったので、熱中症予防を呼びかけるための良い機会となった。



(5) 熱中症予防について各学級で呼びかけ

体育の授業に水筒を持って行くように、各クラスで保健委員が呼びかけを行った。

〈学校保健委員会〉

(1) 学校保健委員会:7月10日(土)開催

リモート形式で、保護者を対象に学校保健委員会を実施した。養護教諭から本校の暑さ対策の取組紹介と熱中症予防についての情報提供とともに、家庭における熱中症予防についても協力をお願いした。



水と同時に塩分を摂取する理由

① 水分の吸収力を高めるため

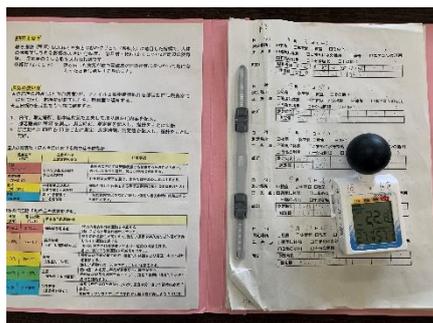


② 体内に水を保持するため

- ・血管の中に水をためておくには塩分の力が必要。
- ・水だけを補給しても、塩分がないと飲んだ水はすぐに尿や便になって体外に出ていく。

〈その他〉

(1)各部活動にて、WBGT 値を 30 分ごとに測定・記録をした。生徒が記録を行うため、常に熱中症指数の数値を意識しながら活動を行うことができた。



(2)遮光ネットの取り付け等

1年生の教室、美術室、音楽室は3階にあり、日光が当たりやすいため、少しでも涼しく過ごせるよう遮光ネットを設置した。そのほか、大型扇風機を美術室に設置をした。



【工夫点】

妻沼保健センターでの啓発活動では、熱中症の危険性が高いご高齢の方々に熱中症予防を呼びかけた。また、生徒保健委員会以外の生徒にも作業に参加してもらい、より多くの生徒が熱中症予防を意識することができるよう機会とした。

生徒朝会では、保健委員の生徒が熱中症予防について呼びかけることで、生徒同士で意識を高め合うことができた。加えて、学校保健委員会では、保護者向けに、塩分補給の大切さについて経口補水液の説明を交えて啓発し、家庭での熱中症予防について協力を依頼した。

3 今後の課題

WBGT 値の記録結果の活用方法について考えていく必要がある。来年度以降は、掲示以外の啓発方法を実施できるようにしていきたい。

昨年度の課題として、地域への発信方法が保護者にとどまってしまったことが挙げられていた。今年度は、学校保健委員会にて保護者への発信を行い、地域への発信活動として、妻沼保健センターで熱中症予防のうちわ等の配布を行うなど、地域への発信活動により、熱中症リスクの高いご高齢の方々に熱中症予防の啓発を行うことができた。今後、地域に広く熱中症予防を呼びかけるために、活動場所を増やすとより効果的であると感じた。また、来年度以降は、より生徒が主体的に取り組めるような活動を実施できるように、工夫をしていきたい。

※審査基準は「独創性」、「波及・汎用性」、「持続性」、児童・生徒の「主体性」の4つ(工夫して記載して下さい)。
報告書の枠等は必要に応じて調整して下さい(無理に1枚に収める必要はありません)。